



視点
4-1

視点4 事業の継続性

視点4-1 施設再生、管理の改善・効率化に努めます

1. 『湘南ふじさわ下水道ビジョン』での方針・目標

藤沢市では約 1,595km の管路と 2 処理場、15 ポンプ場が稼働し、40 万人以上の市民生活から発生する下水の送水・処理を行っています。中でも辻堂浄化センターは最も古く、昭和 37 年度から建設工事を行っており、標準耐用年数の 2 倍を超えるまで長く使用している機器等も多くあります。藤沢市における下水道建設のピークは昭和 50～60 年頃であったため、今後、老朽化が著しい施設がさらに増加し、これらの老朽化施設を放置すれば処理機能の停止によるトイレの使用制限や未処理下水の流出、管路の破損による道路陥没など、日常生活や社会経済活動に重大な影響を及ぼすおそれがあります。このため効率的な維持・管理・改築等によって施設を再生することが求められています。

方針・目標
【長期目標】







施設の長寿命化を図り、効率的な施設再生に努めます

主な施策

- 1) 施設の管理基準・事業計画の作成
- 2) 下水道台帳(施設)、改築・修繕履歴の体系的なデータベース化
- 3) ライフサイクルコスト最小化を目指した施設再生・施設長寿命化の推進

2. 第1期アクションプログラムの評価

老朽化が進んでいる 2 処理場、2 ポンプ場の設備に対して長寿命化計画を策定し、改築を実施中ですが、標準耐用年数の 2 倍を超えて使用している設備は依然多数あり、限られた財源の中で、健全度評価により改築対象設備を選択し、対策緊急度の高い設備を集中的に長寿命化又は更新を実施しています。今後はさらに急速に設備の老朽化が進み、処理場・ポンプ場の機能停止のリスクが増大していくため、藤沢市下水道全体のストックマネジメント実施方針を策定し、下水道のリスク評価精度を高め、より効率的な施設管理・改築を実施する必要があります。

	第1期アクションプログラムでの実施状況	評価指標	
		活動指標	効果指標
1) 施設の管理基準・事業計画の作成	老朽化施設の長寿命化計画を立案。施設の管理基準等は確立できていない 	長寿命化等対策実施施設数 目標：33 施設 実績：9 施設 	目標耐用年数内施設の確保率 目標：約 80%以上 実績：65% 
2) 下水道台帳、改築・修繕履歴のデータベース化	下水道台帳(施設)を整備したが、固定資産台帳・維持管理台帳等との一体化は未実施 		
3) LCC 最小化を目指した施設再生等の推進	老朽化リスクの高い施設から改築を実施しているが、財政制約などから、改築対象の絞り込みを実施 		
施策評価	 限られた財源の中で対策緊急度の高い施設を集中的に長寿命化又は更新を実施している		

用語：管理基準、健全度評価、固定資産台帳、ライフサイクルコスト(LCC)



3. 第2期アクションプログラムの実施方針

今後、老朽化施設が急速に増大し、処理場・ポンプ場の機能停止のリスクが増大していくものと考えられます。このため、「①ストックマネジメント実施方針（施設）」「③ポンプ場等再構築基本方針」を策定し、下水道全体に対する維持管理・改築方針を定めるとともに、施設情報管理の効率化により、施設再生・管理のより一層の効率化を目指していきます。

【主な事業内容のポイント】

- 「ストックマネジメント実施方針(施設)」「ポンプ場等再構築基本方針」の策定・実施
 - ・ 藤沢市下水道施設全体の長期的な維持管理・改築計画の策定（①②③）
 - ・ 施設情報管理の効率化とリスク評価精度の向上（②⑤）

表1 「視点4-1. 施設再生」の主な事業内容

主な施策項目	具体的な事業	種別	事業実施時期					
			29	30	31	32	33	34
1) 施設の管理基準・事業計画の作成	①ストックマネジメント実施方針（施設）の策定	見直し	→					
	②施設の管理基準の作成	見直し	→					
	③ポンプ場等再構築基本方針検討ほか、各種施設計画検討	新規	→					
2) 下水道台帳(施設)、改築・修繕履歴の体系的なデータベース化	④下水道台帳（施設）の更新	継続	→					
	⑤ストックマネジメントデータベース構築	強化	→					
3) LCC最小化を目指した施設再生・施設長寿命化の推進	⑥処理場・ポンプ場の計画的改築の実施	継続	→					

4. 第2期アクションプログラムの目標（活動指標と効果指標）

主な施策・事業の実施状況及び実施効果については、以下の活動指標・効果指標を基に、3年ごとに評価を行います。

表2 「視点4-1. 施設再生」の目標（活動指標と効果指標）

施策項目	指標		第2期AP目標		備考 (実績)
			中間評価 (H31年度)	第2期AP (H34年度)	
ライフサイクルコスト最小化を目指した施設再生・施設長寿命化	活動指標	長寿命化等対策実施施設数	17施設 (H29～31)	5施設 (H32～34)	H23～28末 9施設
	効果指標	目標耐用年数内施設の確保率	約70% (H31末)	約70% (H34末)	H28末 65%

※活動指標の計算方法・・・長寿命化等対策実施施設数=市の改築計画における期間内の長寿命化等対策施設数

※効果指標の計算方法・・・目標耐用年数内施設の確保率=処理場・ポンプ場全236分類施設（機械・電気）のうち、標準耐用年数経過率2倍以内の施設の割合（評価年値）

用語：